

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生



第9回

ザクロ

ザクロは学名を *Punica granatum* Linne と称し、ザクロ科に属する落葉低木で、原産地はイラン、トルコ等の中近東と考えられています。



学名の *Punica* はカルタゴ辺りが原産地と考えられていたことからカルタゴを意味する *Punicua* から、また、*granatum* は粒状を意味し、果実の中の種子の状態を意味しています。Linne は命名者名がリンネであることをしめています。この様に学名から色々な情報を得ることが出来ます。

葉は対生につき表面はつやがあります。初夏紅橙色の合弁花を開き、秋に多くの種子を内蔵する径5~10cm程の果実を結びます。種子を取り巻く果肉は酸っぱくてジューシーなので乾燥地域で良く食べられます。樹皮は柘榴皮と呼び、特徴ある成分としコニイン、ペレチエリン、イソペレチエリン、メチルイソペレチエリン、プソイドペレチエリン等のアルカロイドを含んでいます。コニイン等はヒトには低毒性で、条虫に強い毒性をしめすため条虫駆除薬として用いられていましたが、現在日本では用いられません。一方果皮はプニカタンニン等タンニンを多く含み、古来より口内のただれ、歯痛、下痢等に用いられてきました。

本画は1700年代後期ショウムトンによる作で手彩色で描かれています。